

## ◆ボンボン・チヨコレートとジヤム

坂部甲次郎

今は昔、リヨンの日本人俱楽部で新年宴会が、いつも盛大に開催されたことがあった。リヨン在住の日本人は全部一堂に会し久し振りで味う日本料理に舌鼓を打つて最後には一人残らず福引の景品まで渡された程の盛況であった。私が昔フランス語を習つた先生は『満州の大平原』という福引で棒チョコを十本とボンボンを沢山頂戴した。

当時リヨンに在住していた日本人だつたら、この福引を聞くと同時に、ニコッとしたことと思うが時代が変つてしまつたので若い方々には解らないかも知れない。日本が満州に出兵して満州では

至る所、砲火がボンボン響き渡つてゐる時だつた。それで福引の『ココロ』は『ショコラ』でボンボン』といふのであつた。チヨコレートはフランス語でショコラといふ。フランス語で『ショ』といふ音の時は英語で『チヨ』である。フランス語で『シャ』の音の時は英語で『カ』の場合が多い。

『シャッポー』は英語では『キャップ』である。チヨコレートの場合は英語もフランス語もCHOではじまるわけは元はメキシコ語で、それがスペインやフランスに輸入されたものである。

スペイン人は一五二〇年頃からメキシコ産のチヨコレートを好んで飲んだが、一般が盛に飲むようになったのは、その製法がわかつた一六〇〇年以後のことである。



だつたかは一日に数回も飲んでも、それに倦きたらず教会へ行く時でもチョコレートを持参したものである。

ではメキシコ語で『ショコ』はどういう意味の語であろうかというと、これには二説ある。『ショコ』が音という意味であるという説とチョコレートの原料である『ココア』のことであるという説である。『ショコラ』の『ラ』は『水』の意味で水を加えてチョコレートを作るのであるが水を加えた時に泡立つて騒々しい音を立てたるから『音』といつたのか、それとも『ココア』の実が堅くつて粉にするのに騒々しい音を立てなければならぬから『音』といつたのか私にはわからない。ココアと水という語源説の方が受取れる説である。



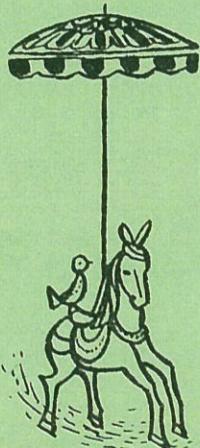
といい片言をいうということを英語で『バップル』という。幼児が片言を喋り出す時に一番簡単で発音しやすい音は唇で発音するBの音である。ポンボンがお菓子でベベが赤坊でボボが痛いところでビビは『私』とか『坊や』のことである。

○

のギリシャでは蜜でマーマレードを作った。フランス語で俗に『コンフィチュール』といふと黄色いネットトした排泄物を指すばかりでなくフランスでは親しい恋人同志を呼ぶのに『マ・クロット』(私の糞よ)とか『クロタール』(糞たれ)などと呼ぶのは日本人には想像もできない愛称だと思つていたら捏ねたチョコレートを俗に『クロット』というのだそうだ。だから英語で恋しい相手を『マイ・スイート』などと呼ぶと少しも変わらないことがわかつた。

(仏語学者)

ポンポンもチョコレートも女の子と子供の大好きなものだが西洋で子供にやるオヤツは大体ジャムが多めで、そのうち砂糖で作られたのが『メロン』との合成された語で昔は林檎をメロンといつたのである。だから砂糖の製法を知らなかつた昔



今では丹波の山奥に育つて一度も都に出したことがないという人でない人だつたらポンポンが何物であるかを知つてゐるが、そのポンポンと『ボーナス』とが語源的には全然同じ代物であることを知つてゐる人は割合にすくない。

ボーナスはラテン語が、そのまま英語に、フランス語に、日本語になつてゐる語であつて、その意味は『良い』というのである。

誰だつてボーナスが悪いなんて思ふ人はない。フランス語で『良い』という形容詞は『ポン』であるが、その形容詞を重ねたのが『ポン・ポン』である。世界各国で幼児語といえば重語にきまつている。犬をワンワン猫をニャニャというようにフランスの赤ん坊が『オイシ・オイシ』という意味で『ポン・ポン』といつたのである。それが菓子の名称となつたのである。

英語で『赤ん坊』をベビー、フランス語でベベ